

サイコロ

ISHIKAWA MERIYASU MAGAZINE

Special Feature

“職人向け作業用手袋”



Column

作業用手袋ができるまで

News

作業用手袋「サイコロ印」一般販売開始



中学生時代から家業を手伝ってきた石川君夫。「繊維業界は人を育てるのに時間がかかります」

手袋作って50年。 先代社長が語る

小さな自動販売機のような機械から数分おきに手袋が編まれて落ちてくる——。石川メリヤスの工場を見学したお客様が「うわー」と歓声を上げて興味を示してくれる瞬間です。

作業用手袋は、1957年に創業して以来の主力商品です。創業当時は手動式軍手編機5台だけで製造していました。現在は、最新のホールガーメント横編み機も含めた全150台の編機を所有しています。その大半が常に稼働して、糸から自動的に製品を作っていく光景は壮観です。

ただし、すべての機械で手袋を作っているわけではありません。作業用手袋の製造に主に使うのは7機種88台。先代社長の石川君夫がその理由を解説します。

「新しい機械でも軍手（作業用手袋）を編めないことはありません。でも、強度のある糸を使うと針などが壊れやすい。軍手は昔ながらの丈夫な機械でゆっくり編むほうがいいのです」

石川は作業用手袋の製造に携わって50年の大ベテランで、今でも毎日工場で機械を扱っています。「なかなか引退できない」と笑顔でぼやくのは、繊維の現場仕事は経験に基づいた知識が問われるからです。

「糸の性質を知ることが特に大事で、かつ難しい。ループになった糸、ストレッチ素材の糸など、特殊なものは編立が難しいので気を遣います。強度がある糸を使うときは手を巻き込まれるとケガをしやすい。普通は糸のほうが切れるのですが、強い糸だと手のほうを切ってしまいかねません」

ニットは伸び縮みが大きいので、朝晩の気温差でも寸法が変わってしまいます。何度も失敗をして試行錯誤と創意工夫をしながら、「この性質の糸はこの機械でこのように編み立てればうまくいく」ことを一つひとつ覚えていくのです。

糸を知ることの難しさに比べると、機械は簡単だと石川は指摘。糸に比べると種類が少ないため、毎日扱っているうちに操作とトラブル対応を

習得できるそうです。

「うちのように台数が多いと、常にごく一部の機械が故障する。何度も同じようなトラブルを見ていれば、どこをどう直せばいいのかすぐにわかるようになります」

様々なニット小物の生産が可能になるように、機種を幅広く備えているのが石川メリヤスの特徴です。技術の蓄積もあるため、新しいアイデアを商品化するのに適した工場とも言えます。例えば、作業用手袋の指先にデコボコ加工をつけた犬の歯磨き手袋などです。

「設備も経験もあるので、よその工場ではできないような商品を頼まれることが多いですね。まあ、言われたら何でもできますよ」

自信たっぷりに語る石川。実際は、チェーンソーの震動を吸収する作業用手袋など、商品化には至っていない試みもあります。ただし、石川メリヤスはあきらめていません。ニット小物、特に作業用手袋に関しては「何でもできる」工場を目指して、これからも技術力を磨き続けます。

作業手袋 が できるまで

作業用手袋は石川メリヤス創業当時の得意分野。仕様の決定から編立、検品、出荷まで、それぞれの工程に専任の社員が従事し、責任を持ってもの作りに取り組んでいます。



出 荷

仕 様

石川メリヤスでは、製造する商品ごとに仕様書を作成し保存しています。機械や糸の種類、どの指を何回編んでどのぐらいの寸法にするのかを細かく書き込んであります。

編 立

編み機では、手袋を指先から編み始めて、ほぼ完成品に近い形状となって出て来ます。編み時間は手袋1枚につき3～5分です。

縫 製

ここからは手作業の工程です。近隣の内職さんの協力も得て、手首のオーバーロック（かがり縫い）などの縫製をします。

仕 上 げ

これも手作業。指先や指又などから出る糸は中に引き込み、1枚ずつ金型に入れてキズがないかを確認します。

検 品 ・ 検 針

寸法や縫製などで不良がないかを検品します。石川メリヤスでは、すべての製品を検針機に通しています。

News

5本指靴下「人間を考える足である」 新パッケージ

シンプルだけど長く使えて、店頭でも古びることがない機能とデザイン——。石川メリヤスは全商品を対象にリ・ブランディングを進めています。

昨年は看板商品である温潤靴下「ラブヒール」のパッケージを刷新。今年は5本指靴下「人間を考える足である」のパッケージを新しくしました。デザイナーの相田貴子さんは、パッケージ構造をゼロから考えることに苦労したと語ります。

「包装の作業をするときにいかに簡潔に商品を入れられるかを考えるのが大変でした。表紙に使用した足型のイラスト作成は3D製作会社さんの力をお借りしました。パッケージの色は従来のものを踏襲して、一貫性を出したつもりです」

小さなこだわりはフックを紙製にしたことです。脱プラスチックのために石川メリヤスができることを行い、人間の足にも環境にも優しい商品が実現しました。



Editorial Note

社長に就任して丸4年が経ちました。最近、よく実感するのが「うちの会社の原点は軍手（作業用手袋）だ」ということ。だからこそ、新しい試みは作業用手袋からやるべきだと思い、このたびサイコロ印シリーズを一般向けに販売します。地元産のリサイクル繊維を使い続けており、SDGsの大きな流れにも合致する商品です。ただし、広く売っていくためには私たちだけでは知恵が足りません。ご意見をいただけると幸いです。（大宮裕美）

冊子名『サイコロ』とは

「メーカーの基本は何よりも品質」。

初代社長の想いが込められた創業以来の作業用手袋「サイコロ印」のブランド名から名付けました。本冊子では、この精神を守りつつ、石川メリヤスの「いま」をお伝えします。

作業用手袋「サイコロ印」一般販売開始

2020年3月末で最終回を迎えたNHKの連続テレビ小説『スカーレット』。陶芸家の主人公が作業用手袋をはめて穴窯や電気釜に向かうシーンが何度も出て来ました。

作業用手袋は便利で手の安全性を高める商品です。一般家庭にも普通にあっていい、プロ仕様のもので使ってみたい人もいるはずだ、と石川メリヤスは考えます。そこで、職人向けのサイコロ印シリーズを一般向けに販売することにしました。

高い機能性はそのままに、デザインには工夫を加えました。手首のオーバーロック（かがり縫い）は種類ごとに色を変えて、「集めて楽しく並べてキレイ」な商品展開に。ブランドネームタグは決まった保管場所にひっかけられるループを兼ねています。

帯パッケージには丈夫でかつ風合いのある紙を使用し、主な用途がわかるイラストを入れました。手仕事好きな人へのプレゼント用にも使っていただける商品です。



Credit

編集・執筆・撮影・発行 石川メリヤス有限会社
Art direction & Design 相田貴子 (Consulting Design Tokyo)
写真 渡邊 修、東畑 賢治、ほか

2020年6月発行

商品問い合わせ&注文先

石川メリヤス有限会社

〒444-0515 愛知県西尾市吉良町富好新田紺屋堀 27-2
TEL 0563-32-0420 FAX 0563-32-3066
E-mail info@ishimeri.com URL https://ishimeri.com